

## II. 十字架でのさばき

### □この学びの目的

3つの前線における敵は、すでに十字架上でさばきを受けた。罪の性質、サタンと悪霊たち、そして世、これら3つの敵の実態は、「すでに敗北を喫した敵」である。このことを知って戦うなら、無用に恐れる必要はない。私たち信者は、霊的な戦いに勝利することができる。

### □この学びの内容・・・3つの敵がそれぞれ十字架の上でさばかれたことを学ぶ

1. 罪の性質【古い人、罪のからだ、肉、罪】が、さばかれた
2. サタンと悪霊たちが、さばかれた
3. 世（よ）が、さばかれた

### □アウトライン

1. 罪の性質【古い人、罪のからだ、肉、罪】が、さばかれた
  - (1) 罪の性質は、キリストとともに十字架に付けられた
  - (2) 罪の性質は、もはや法的支配権（正当な支配権）を持たない
  - (3) 罪の性質は、なくなっていない。まだ活動している
  - (4) 信者は、罪の性質に従う義務の下には、もはや、いない
  - (5) 私たちは、罪の性質から解放されている
  - (6) 私たちが罪の性質に勝利することは、可能とされている
2. サタンと悪霊たちが、さばかれた
  - (1) サタンと悪霊たちは、すでに敗北している
  - (2) サタンと悪霊たちは、もはや法的支配権（正当な支配権）を持たない
  - (3) 信者は、サタンと悪霊たちに勝つことができる
3. 世が、さばかれた
  - (1) 世とは、サタンがこの世を支配するためのシステムである。世がさばかれたとは、二つの意味を持つ
  - (2) 私たちの罪が十字架の上でさばかれた
  - (3) 私たちは、まだ「世」の中にいる
  - (4) 私たちは、「世」が要求するのとは違う生き方で歩む

## 1. 罪の性質【古い人、罪のからだ、肉、罪】が、さばかれた

## (1) 罪の性質は、キリストとともに十字架に付けられた

ロマ6:6 私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが滅ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。→「古い人」(=罪の性質)はキリストとともに十字架につけられた。「罪のからだ」(=罪の性質)が滅ぼれた。

ロマ8:3 肉(=罪の性質)によって弱くなったため、律法にできなかったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉(=体)と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉(=体)において罪を処罰されたのです。→「肉において」、すなわちメシアが十字架の上で死んだとき、罪(=罪の性質)もまた、十字架の上で処罰された。

## (2) 罪の性質は、もはや法的支配権(正当な支配権)を持たない

ロマ6:6 私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが滅ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。→「古い人」(=罪の性質)はキリストとともに十字架につけられた。「罪のからだ」(=罪の性質)が滅ぼれた(=無力化された、法的支配権を失った)。その結果、私たちがもはや罪(=罪の性質)の奴隷でなくなった。罪の性質はもはや、私たちの正当な主人ではない。

ロマ6:11 同じように、あなたがたもキリスト・イエスにあつて、自分は罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者だと、認めなさい。→信者は(=罪の性質)に対して死んだ者である。聖書で死とは分離を意味する。信者は、罪の性質から分離されており、罪の性質によって支配されることは、もはやない。

ロマ6:14 罪があなたがたを支配することはないからです。・・・

→「罪があなたがたを支配することはない」というのは、罪の性質はもはや私たち信者に対して正当な支配権を持たないという意味である。

信者になる前、私たちの主人は「罪の性質」であった。私たちは、罪の奴隷であった。メシアの血は、奴隷を買い戻すための代価。それが、贖い

(3) 罪の性質は、なくなっていない。まだ活動している

Iヨハ1:8 もし自分には**罪**がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。

→この「罪」は単数形の罪であり、罪の性質を指す。私たちが信仰によって救われて信者になっても、罪の性質はなくならずに、まだ活動している。

(4) 信者は、罪の性質に従う義務の下には、もはや、いない

ロマ 6:12~13 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪に支配させて、からだの欲望に従ってはいけません。また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。

→(2) で見たように罪の性質はすでに正当な支配権を失っている。信者はもはや罪の性質に従う義務の下には、いない。にもかかわらず、信者が自分のからだを罪の性質に支配させて欲望に従うとするなら、それは信者自らが選択して、まさに「罪に支配させて」という状態である。ロマ 6:12 は、罪の性質に従う義務の下にはもういないのだから、自分のからだを罪の性質に支配させてはならない、と命じている。メシアの律法は、私たち信者に不可能なことを、困難なことを命じることはない。それをできるようにしてくださったうえで、命じてくださる。そして、たとえそれに失敗しても、Iヨハネ1:9の祈りをすることで赦しときよめをいただくことができ、神との交わりを回復し、再び光の中を歩むことができる。

Iヨハ1:9 もし私たちが自分の**罪**を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

→この「罪」は複数形の罪、私たちが犯す具体的な罪を意味する。「告白する」とは言い表す、認めるという意味。父なる神に対し祈りの中で、自分のしたことを「罪でした」と認めること。その祈りによって、父なる神はその罪を赦してくださり、同時に私たち自身が気づいていないすべての不義（罪）も赦されて、きよめられる。その結果、信者は神との交わりを回復する。

## (5) 私たちは、罪の性質から解放されている

ロマ 6：17～19 神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規範に心から服従し、罪から解放されて、義の奴隷となりました。あなたがたの肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。以前あなたがたは、自分の手足を汚れと不法の奴隷として献げて、不法に進みました。同じように、今はその手足を義の奴隷として献げて、聖潔に進みなさい。

→「伝えられた教え」とは、使徒たちの教えのこと。ユダ3「聖徒たちにひとたび伝えられた信仰」も、使徒たちの教え。それが新約聖書となった。「ひとたび」とは、一度限りですべて、の意味。使徒たちの教えのあとに、新しい教えが登場することはない。新約聖書の啓示は完結している。

→「規範」と訳されている用語、本来の意味は、【金型でプレスされて金型と同じ形になったもの】である。使徒たちの教えを受け取り、心から信じると、その信者の内側の靈魂は使徒たちの教えによってプレスされて神の義が現れる。その神の義によって信者が歩むと、また神の義が現れる。神の義は、義を産み出す。それを繰り返していくのが、聖化のプロセスである。そのゴールは、信者をメシアに似た者に変えることである。

→「人間的な言い方」とは、信者が「義の奴隷となった」という言い方。罪の奴隷であった私たちが、信じて救われてどうなったかを説明するために、パウロはあえて「義の奴隷」というたとえを用いた。参照 ロマ 8：14「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく」

## (6) 私たちが罪の性質に勝利することは、可能とされている

ロマ 6：20～22 あなたがたは、罪の奴隷であったとき、義については自由にふるまっていました。ではそのころ、あなたがたはどんな実を得ましたか。今では恥ずかしく思っているものです。それらの行き着くところは死です。しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得ています。その行き着くところは永遠のいのちです。

→「実」とは、内側にあるものが外側に現れた行い。信者になる前に私たちがしていた行い（実）は、今にして思えば「恥ずかしい」ものであり、人を死に導くものであった。

→「聖潔に至る実」とは、使徒たちの教えによって信者の内側にプレスされた神の義が産み出す、義なる行いである。神の義によって義を行っていくことの繰り返しが聖潔、すなわち聖化である。そしてその行き着くところは永遠のいのち。

永遠のいのち：22節は聖化の先で行き着く、23節は信じたときに既に得ている

ロマ 6：23 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの**主イエス・キリストにある永遠のいのち**です。

→ 信者でない人は、罪の奴隷である。【罪の性質】に従うしかない。【罪の性質】に従っての行いをするので、その人が自分の主人である【罪の性質】から受け取る報酬は、快樂であったり、お金であったり、名誉であったり、自己満足であったり、しかし、その行き着く先は死である。

→ しかし、神の賜物、これは信者の行いによらず、無代償に、神の恵みによって与えられるものである。この賜物とは、信じたときに信者が受け取る、永遠のいのちである。これは「主イエス・キリストにある」いのちである。すなわち、信じて「キリストにある」という地位をいただいた瞬間にすでに与えられた永遠のいのちである。この**地位の真理における永遠のいのち**から、信者の霊的な生活は出発する。そして、聖化を経て、信者はその地位にふさわしい者に変えられ、名実ともに、22節の「永遠のいのち」を受け取る者となるのである。信者の勝利は保証されている。

ロマ 8：4 それは肉に従わず**御霊（霊）に従って歩む**私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。

→ 「肉に従わず」=罪の性質に従わず、「御霊に従って歩む」=信じたときに御霊によって与えられた新しい性質【霊】に従って歩む

→ 「律法の要求が満たされる」・・・この律法は、「キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法」(2節)である。新約聖書の中に記されている神の命令、キリストの律法である。この律法の要求を満たすためには信者は何をするべきか。自分の内側に残っている罪の性質に従うのではなく、信じたときに信者が受け取った新しい性質に従うことを選び取っていかねばならない。ただし、自分の力に頼るのではなく、聖霊に頼るのである。新しい性質の中には、神の霊、聖霊が宿ってくださっている。この内住の聖霊の力と導きによってはじめて、信者はキリストの律法を守ることができる。よって、キリストにある信者にとって、罪の性質に従わず、新しい性質に従うことは、「新しい性質【霊】に従って歩む」ことであり、同時に「御霊に従って歩む」ことでもある。

内住の聖霊の力と導きにより、信者が罪の性質に勝利することは、可能とされている。

もし自分の力で神の律法を守ろうとしたら、どうなるか。信者は、パウロが体験し、ロマ 7章で記した葛藤に陥る。したいと願う善を行う力が自分にはなく、自分の内側に罪の性質が宿っていることを認めるほかない。しかし、信者はそこを

通る必要がある。自分の無力さを認めた信者は、神の恵みに目が開かれる。そして罪に敏感になり、Iヨハ1:9の罪の告白の祈りに至る。そこを通過してはじめて、ロマ8章の「キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法」の恵みに与かる。このような葛藤と恵みに導かれるサイクルが地上の歩みの中で繰り返される。それが聖化のプロセスである。

## 2. サタンと悪霊たちが、さばかれた

### (1) サタンと悪霊たちは、すでに敗北している

ヨハ12:31 今、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者が追い出されます。

→ 「この世を支配する者」とは、サタンである。サタンは十字架の上でさばかれた。

ヨハ16:11 さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。

コロ2:15 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。

→ 「支配と権威」は、天使や悪霊の上級階級を指す用語。ここで言う「**支配たちと権威たち**」は武装解除され捕虜となっているので、聖なる天使ではなく、悪霊である。悪霊たちも十字架の上でさばかれ、「支配たちと権威たち」は捕虜となって、キリストが天に凱旋したときに連れていかれた。

### (2) サタンと悪霊たちは、もはや法的支配権（正当な支配権）を持たない

ヘブ2:14~15 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。

→ 「死の力を持つ者」とは、死の時を決める権限を持っている者という意味。悪魔＝サタンは、人間の死の時を決める権限を持っている。「悪魔をご自分の死によって滅ぼし」とは、イエスが十字架上の死を遂げたときにサタンも十字架の上でさばかれ、その権限を信者については喪失したことを指す。キリストにある信

者については、その信者の死の時を決めるのは、サタンではなく、キリストである（Iテサ4:14）。14節の「滅ぼし」は、消滅させることではなく、無力化すること、法的な支配権（正当な支配権）を失わせることを意味する。

(3) 信者は、サタンと悪霊たちに勝つことができる

ヤコ4:4~7 節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。それとも、聖書は意味もなく語っていると思いますか。「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる」と。それで、こう言われています。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える。」ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

→ 悪魔、サタンに対抗する前提は、次の3つ。第一、世（サタンがこの世を支配するためのシステム）の友とならないこと。第二、内住の聖霊を悲しませず、聖霊の導きに従うこと。第三、高ぶらず、へりくだること。特に三つ目のへりくだりにより、自分の力に頼らず、神の恵みに気づかされる。サタンが恐れるのは、人間の力ではない。神の恵みである。信者は信じたときに、キリストにあるという地位に基づいて33もの恵みを受けている。その恵みをもって、岩なるキリストの上に堅く立つとき、悪魔は、なすすべがなく、逃げ去っていく。

3. 世が、さばかれた

(1) 世とは、サタンがこの世を支配するためのシステムである。世がさばかれたとは、二つの意味を持つ

① システムを作り動かしているサタンと悪霊たちが、さばかれるということ。これは、前述の「2. サタンと悪霊たちがさばかれた」と重なる。

ヨハ12:31 今、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者が追い出されます。

② このシステムの目的は、人間を神から引き離し、具体的な罪を犯させることである。よって、人間が犯すすべての罪がさばかれて、処理されねばならない。よって、世がさばかれたというときの2番目の意味は、私たちの罪が十字架の上でさばかれた、ということである。

## (2) 私たちの罪が十字架の上でさばかれた

I コリ 15:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

コロ 2:14 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

I ペテ 2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された。

I ヨハ 2:2 この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。

## (3) 私たちは、まだ「世」の中にいる

ヨハ 17:11 わたしはもう世にいません。彼らは世にいますが、わたしはあなたのもとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです。

ヨハ 17:15 わたしがお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。

ヨハ 17:18 あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。

## (4) 私たちは、「世」が要求するのとは違う生き方で歩む

ヨハネ 17:16~17 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものはありません。真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。